市民活動サポートセンターいなぎ 20周年を祝う会を開催しました

市民活動サポートセンターいなぎの「20周年を祝う会」を、去る8月27日に地域振興プラザで開催しました。

当日は稲城市長・市議会正副議長をはじめとする行政・議会関係や、商工会・社会福祉協議会など関係団体から多くの来賓に参列いただき、これまで金曜サロンスペシャルでお話いただいた話し手の方々もお招きして、盛大な祝賀会となりました。また、元桜美林大学教授の荒木重雄氏が「稲城の市民活動」と題して記念スピーチを行い、明治時代から連綿と続く稲城地域の住民活動の歴史を紐解き、参加された方々は市民活動への思いを新たにされました。

おじゃまします

平尾ベルの会

平尾地区を拠点に「地域の皆さんに必要とされるときに、出来ることをお手伝いしながら、皆さんと楽しく優しく暮らせること」を目指して活動している「平尾ベルの会」(代表・末松妙子さん)。1990年に発足して今月で満33歳になります。

活動を始めたきっかけは、大病を患いながら寂しく一人暮らしをしている方を支えるため、地域の仲間でグループを作ったことから。日々の暮らしに支えを求める人からの「ベルが鳴ったら、すぐに駆けつける」という思いを、会の名称にしました。

会の立ち上げ後は、デイサービスを利用する高齢者の送迎、高齢者施設での食事・ゲーム・健康体操など活動の手伝い、喫茶コーナーの運営、社会福祉協議会の依頼を受けて日々の生活に支援が必要な家庭への手助けなど、地域で支え合うため様々なボランティア活動を行ってきました。

3年余りにわたったコロナ禍を経て、現在は第1・3火曜と第2・4木曜に平尾団地の集会所でお茶のみ会、第1・3木曜に第三文化センターでピアノで歌う会を開いています。

ピアノで歌う会にお邪魔すると、部屋の扉を開いた途端に20人ほどの元気な歌声が溢れてきて、若々しい声にちょっと圧倒されました。この会は、大病を患って後遺症の残るピアニスト・宮良さんのリハビリも兼ねているそうで、最初の発声練習から30分間以上、歌もピアノも休まず次から次へと歌い続けます。途中に小休止を挟んで1時間半以上、和やかに歌い続ける皆さんの体力と集中力に驚かされました。

ピアノで歌う会

お茶のみ会

当日唯一の男性参加者（そして多分最年少）の町田さんにお話を伺うと、「皆さんが若い頃に歌っていた曲が多くて、皆さんそれぞれ思い出を重ねて歌っている感じがします。青春時代をもう一度謳歌されているようで、感慨深いです」と話してくれました。

また、お茶のみ会は、お茶とお菓子を傍らに体操・折り紙・麻雀・百人一首などをしたり、オカリナや三味線などの演奏を聴いたり、話し手を招いて講話を聞いたり、みんなでおしゃべりをしながら，日々の暮らしを豊かにするひと時を過ごしています。取材でお邪魔したときは92歳になる斉藤さんのお誕生会を兼ねていて、「ハッピーバースデー」を歌ったり、三味線の演奏を聴いたり、そしてあちらこちらでおしゃべりに花を咲かせていました。

参加されていた中野さんと藤巻さんにお話を伺うと「ここに来ると地域のみんなが今どうしているか分かって安心できます。食べたりおしゃべりしながら、みんなで時間を共有できる、こんな気楽な集まりがいつまでも続いてほしいです」と話してくれました。

「かつて、稲城の人たちの結びつきはこんな感じだったんだろうな」と思わせてくれる、温かなつながりの「平尾ベルの会」でした。